

令和元年度10月号 [10月15日(発行)]



# 東風だより

川口市立東中学校  
川口市東本郷2-20-47番地  
TEL 048-281-4065  
特別支援学級 285-2423  
さわやか相談室 281-4627  
<http://www.sch.kawaguchi.saitama.jp/higashi-j/>

## 止まった時計

校長 安部 正 幸

先日、自宅のリビングに掛けてあった時計が止まっていることに気づきました。電池切れかと思って電池を入れ替えてみましたが動きませんでした。時計の裏面には「祝結婚3年3組保護者一同」と書いてありました。私が結婚したのは昭和63年11月でした。担任していた初の卒業生の保護者の皆さんが結婚記念に贈ってくださったものでした。その翌年から平成が始まり、平成が終わった今、その役目を終えたかのように静かに止まりました。止まった時計は捨てることができず、今でも大切にっています。31年間、平成の時代とともに時を刻んできた時計に思いをはせてみました。

### 時計が動き始めた昭和の時代

今では普通に使われている言葉の中に、この時代にはまだなかった言葉があります。①いじめ(ましてやネットいじめなど存在するはずがありませんでした)。②不登校(学校は行くのが当たり前場所でした)。③引きこもり(今のよう家の中で一人で楽しめる電子ゲーム類は発達していませんでした)。④児童虐待(親が子の命を奪うなど考えられませんでした)。⑤クレーマー(「お互い様」という気持ちによって、日本人は今よりもおだやかであったような気がします)。

### 時計が動き続けた平成の時代

このころに24時間営業のコンビニエンスストアやファミリーレストランが登場してきました。そのことにより日本人の平均睡眠時間が減ったともいわれています。そういえば、私が小学生の時、家での消灯時間は夜の8時でした。土曜日だけは親の許可を得てドリフターズの『8時だよ全員集合』を見て9時に寝ました。今の小学生は何時に寝ているのでしょうか。また、夜間に起きていることによって有害なブルーライトにさらされる時間も長くなったそうです。そのことにより脳内(体内)時計が狂ってしまい、子供たちの中に昼夜逆転という現象が起きてきたのもこの時代の特徴だそうです。

### 時計が止まった令和の時代

「昔は良かった」と嘆いていても何も始まりません。時代が進むにつれて世の中は確実に便利になってきています。この便利さの中で、様々な課題が出てくれば出てくるほど、集団で学ぶ「学校教育」の必要性が高まり、価値が上がるのだと思っています。その中で東中学校が生徒のために何ができるかを、私たち教員は真剣に考えていかなければなりません。昭和の時代にあった「学校」「家庭」「地域」が一体となった教育体制を再び見直しながら、最新の情報をとらえ教育実践に結びつけていくことが、新しい令和の時代の教育に必要な要素ではないかと感じているところです。まさに「不易」と「流行」の融合こそが、新しい教育を生み出すヒントになっているのだと思います。